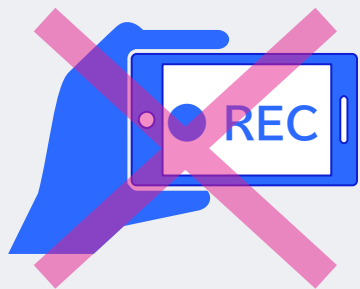


NECが考える AIと人の協働

JTB様との探索事例の紹介
2026.7.29 (水) 15:00 – 16:00

お願いとご案内

録画・録音・画面キャプチャ禁止



セミナーの録画・録音および画面キャプチャのインターネット上への転載は禁止とさせていただきます。

アンケートのお願い



セミナー終了後、アンケートへのご協力をお願いします。

アンケートは、セミナーからご退出された後、ブラウザ画面に表示されますので、そちらよりご記入いただけますと幸いです。
ご意見・ご要望などもお待ちしております。

資料ダウンロードと 無償トライアルワークショップご案内



アンケートご回答後、関連資料をダウンロードいただけます。

またご希望のお客様の中から、**無償
トライアルワークショップ**をご提供いたします。詳細はセミナー最後にご案内します。

NECが考える、AIと人の協働

「Human AI Collaboration」とは

町田 正史 (NEC)

本日本話すること

01

NECが推進する
AIネイティブ企業へ向けて

ー2030中期経営計画よりー

02

AIネイティブと
ヒューマンセントリックの両立

ーヒトを活かす圧倒的な生産性の実現ー

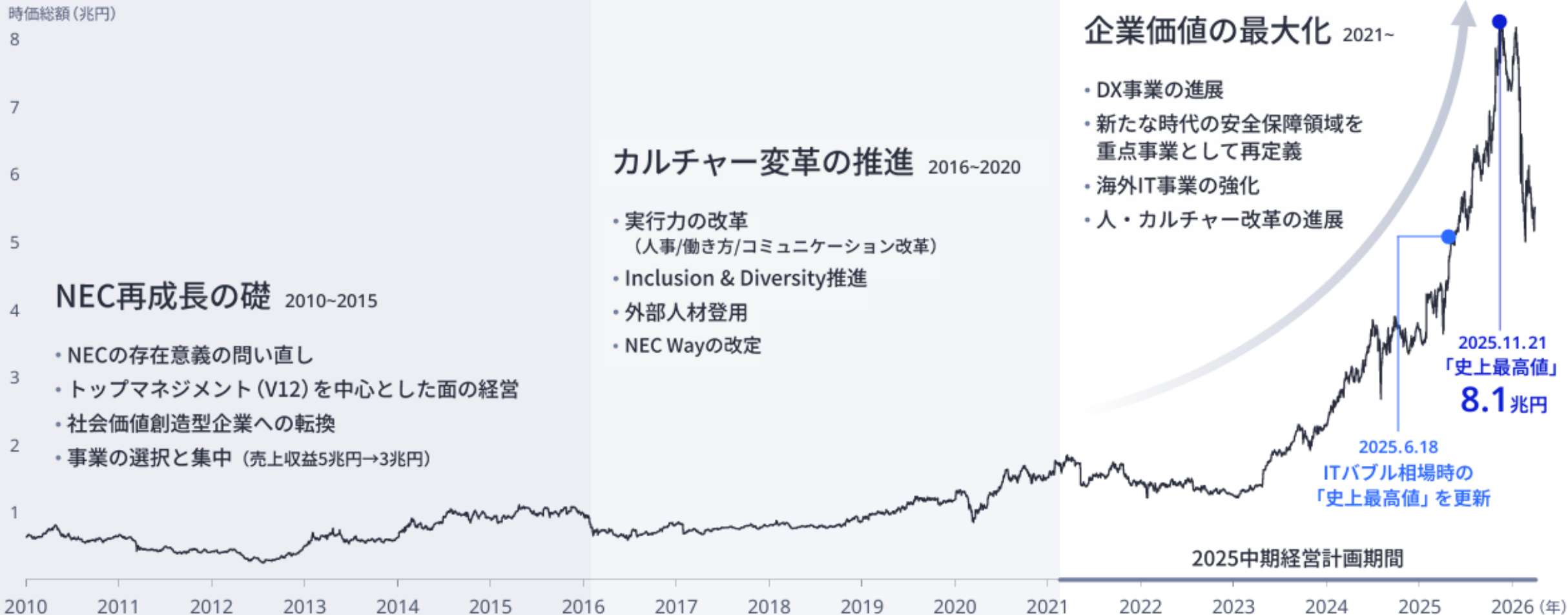
NECが推進するAIネイティブ企業へ向けて

－2030中期経営計画より－

01

NECの現在地

15年超にわたる経営改革を経て、成長軌道へ
AIの普及拡大により新たなフェーズへ移行



AIの進化に伴う構造的変化

AIの非連続的進化を受けテックサービス企業の将来性を資本市場が懸念
時価総額が約80兆円消失(売上規模で約20兆円相当)

主要なテックサービス企業の時価総額の変化
(アンソロピック・ショック)



21社の時価総額の合計を2026/1/6と2026/4/30で比較

資本市場の懸念

- 自動化・効率化によるシステム構築の価値の低下
- 内製化の拡大による既存プレイヤーの事業機会の減少
- ベンダースイッチングコストの低下
- AI運用責任の不明瞭化とリスクの増大

これから起こること(1)－AIサービス市場の拡大

AI産業革命が本格化し、優勝劣敗が鮮明に
グローバルで45兆円を超える規模のAIサービス市場が新たに生まれる

市場レイヤー

市場規模

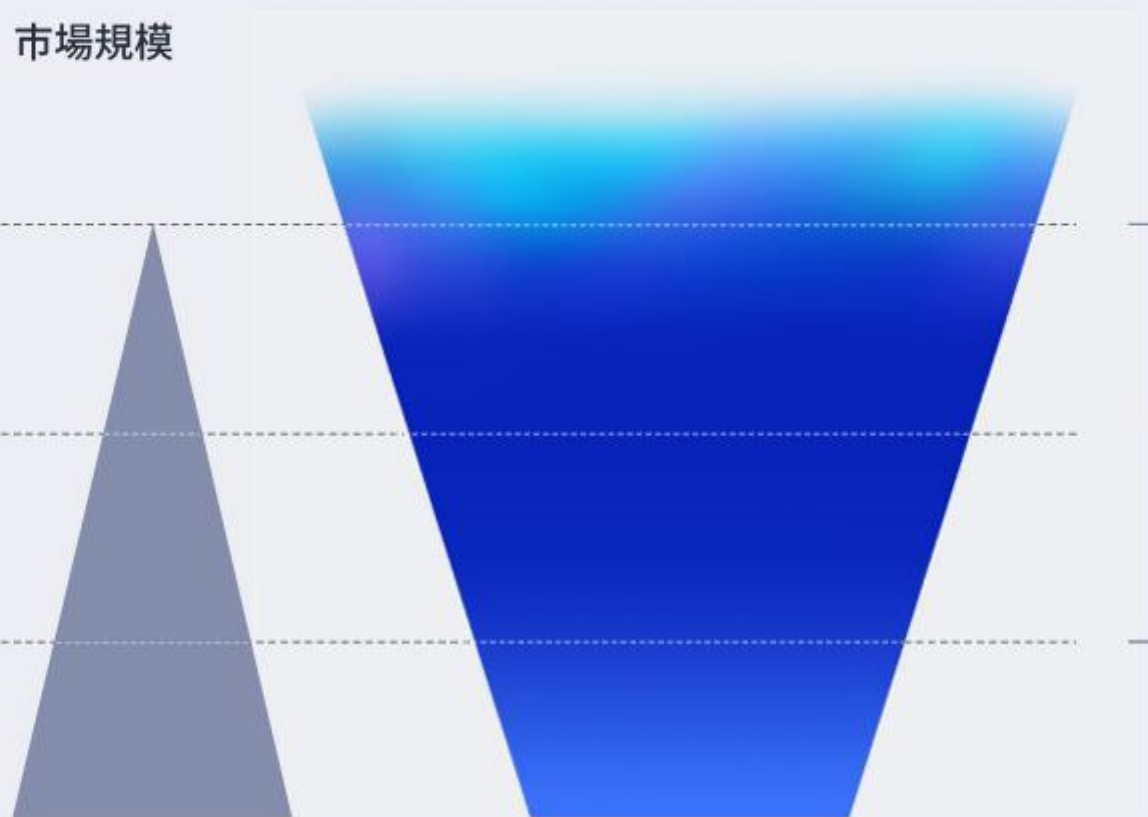
AIサービス市場

AIネイティブな社会/産業

AIアプリケーション/
AIプラットフォーム

データセンター/
クラウド基盤

半導体/
HWコンポーネント
(AIチップ、サーバ、ストレージ、GPUなど)



- ・ フィジカルAI
- ・ コア業務の
AIエージェント化
- ・ AIプラットフォーム
サービス
- ・ データ for AI
- ・ AI活用による
モダナイゼーション

現在



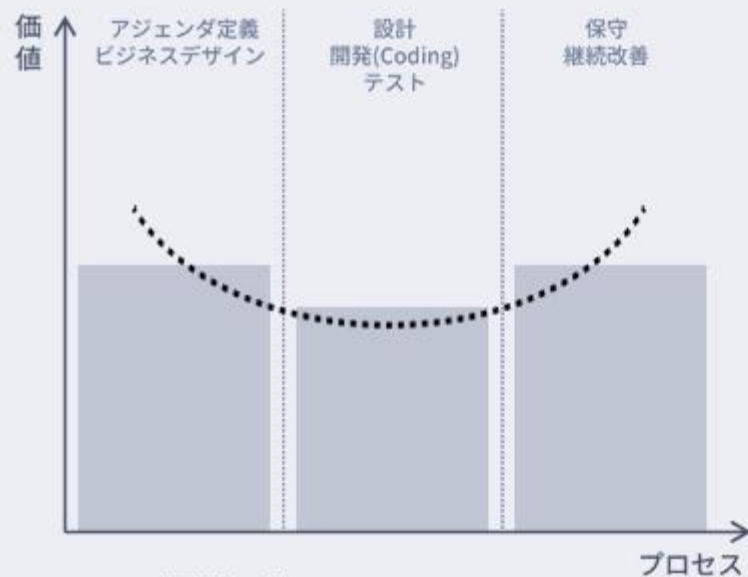
AI産業革命の時代

これから起こること(2)－価値創出の構造が変化

AIの進化により、価値の重心は上流「コンサルティング」と下流「オペレーション」にシフト
ビジネスの構想段階から入り、IT・データ・AIを駆使して成果を創出できる企業の存在価値が高まる

これまで 3つの領域は分断され個別事業として提供

コンサルティング > システム構築 > オペレーション

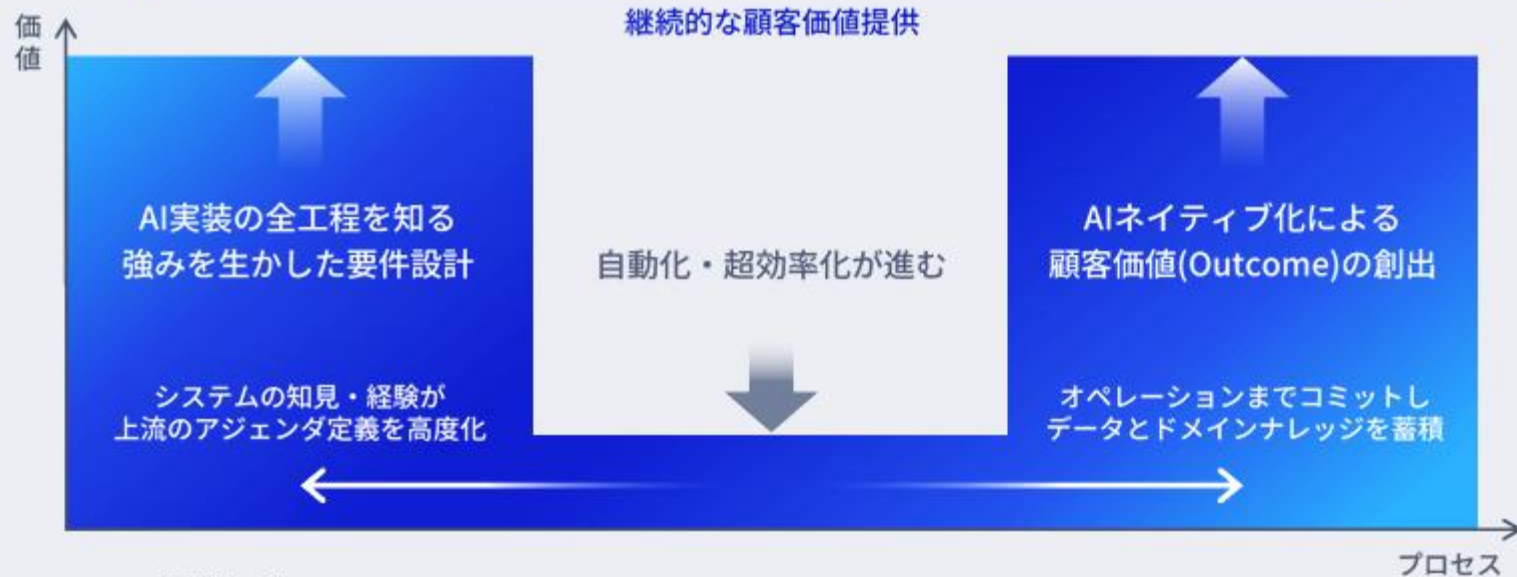


NECの提供価値

SI中心

AIネイティブ時代 3つの領域が繋がって一体となって顧客価値を創出

コンサルティング システム構築 オペレーション



NECの提供価値

End to Endで価値提供
with Security

新しい時代のWinnerの条件

構造変化の中で勝者となるためには、ドメインナレッジ、システムアーキテクチャ、ファウンデーションを一体として兼ね備えていることが不可欠



意思決定と継続的な価値創出を実現する
ドメインナレッジ

業種別のナレッジ

業種横断のナレッジ



顧客成果創出のために設計・実装された
システムアーキテクチャ

AIガバナンス

AI Platform

AI-Ready データの整備

クラウドIT基盤 with セキュリティ



AIネイティブ時代に価値を生むための
ファウンデーション

最先端のAI基盤

最先端のデュアルユース技術※開発

AIネイティブなプロセスと文化

パートナーシップ

※デュアルユース技術：民生用にも安全保障用にも利用される可能性がある技術

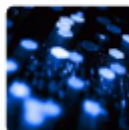
WinnerとなるためのNECの戦略

AIの社会実装(ITサービス)と新たな安全保障の技術実装(社会インフラ)を併せ持ち、
両者の相互作用による継続進化を強みに成長を実現

ITサービス

AIの 社会実装

- ・ 顧客との共創で培われたドメインナレッジ
- ・ ミッションクリティカルな業務を支え続けてきた知見
- ・ 構想～構築～運用まで一貫して担うEnd to Endの実装力
- ・ AIネイティブな価値創造モデル「BluStellar」



ドメインナレッジ

AIの実装による成果創出の経験・知見



システムアーキテクチャ

デュアルユース技術を活用し
AIトランスフォーメーション(AI)を加速



ファウンデーション

文化と経営基盤の変革、最先端技術開発

社会インフラ

新たな安全保障の 技術実装

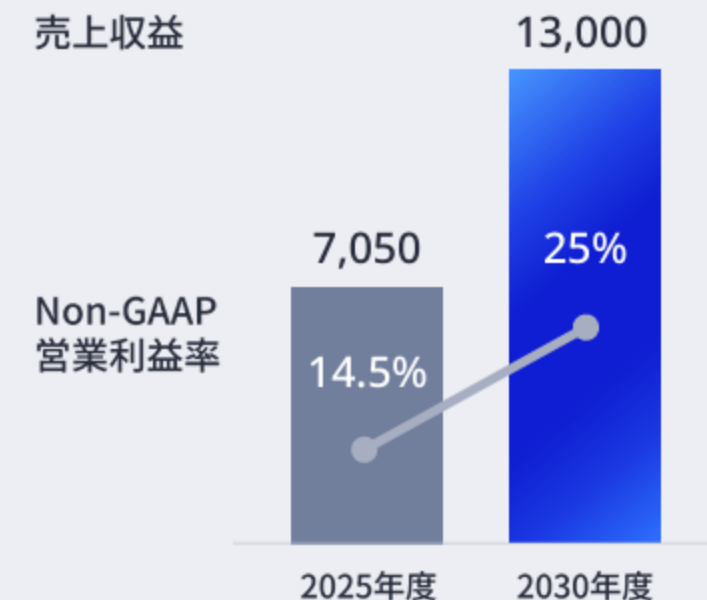
- ・ 海洋・通信・宇宙・サイバーを横断する
安全保障ドメインナレッジ
- ・ 安全・安心を長期にわたり支え続けてきた信頼と実績
- ・ 防衛×デジタルインフラによるフルラインサービス
- ・ インテリジェンスとAIを融合したサイバーセキュリティ

AIの社会実装 | NECのAI戦略 BluStellar

NECのAIトランスフォーメーション(AX)の実践知・最先端テクノロジーを結集し、AIを前提とした顧客の価値創出・競争力の向上を実現

計数目標 (億円)

※買収影響は含まない



ビジネスモデル

- BluStellar Scenario ———— すべてのシナリオにAIを適用
より高度な業務の自動化・機能の拡張を推進
- AXコンサル ———— AIとデータを駆使し、スピーディに顧客の成果創出を実現
- AIを活用した新しいサービス開発プロセス ———— 実装スピードを飛躍的に加速

テクノロジー

- AI Platform Service ———— 顧客のAXに必要なサービスをフルスタックで提供
- アライアンス ———— グローバルトップ企業との連携により、幅広く最新AI技術を提供
- 特化型AIモデルの提供 ———— AIスパコンの機能強化により構築に必要なリソースを増強
- ガバナンス・セキュリティ ———— 安全なAI実装・運用を支えるガバナンスとセキュリティ

組織・人材

- クライアントゼロの実践 ———— NEC自身が「AIネイティブカンパニー」に変革
社内実践で得た知見を、再現性のある外販モデルへ転換
- AX人材の育成 ———— 組織のAXを支援するプログラムを提供

R&D

- 研究開発 ———— AI/セキュリティ等の重点領域でビジネスとの連携を強化
- 知的財産 ———— SaaS/BPO/コンサルとしての知財DX外販
- 新規事業開発 ———— 現事業の強みをより活かせる領域への集中とCVCの有効活用

Empower Humanity

世界に革新と安心を届ける

データから
価値を創造する

AIの社会実装

日本のデジタルインフラを守り
世界の安全・安心に貢献する

新たな安全保障の技術実装

NEC自身がAIネイティブ
カンパニーになる

文化と経営基盤の変革

AIネイティブとヒューマンセントリックの両立

－ヒトを活かす圧倒的な生産性の実現－

02

Human AI Collaborationの目指す先

AI Native × Human Centric

AIの力と、ヒトの意志を掛け合わせ、企業の競争戦略を再定義
経営・事業・サービス・人材・組織 — あらゆる意思決定の速度と質を上げる

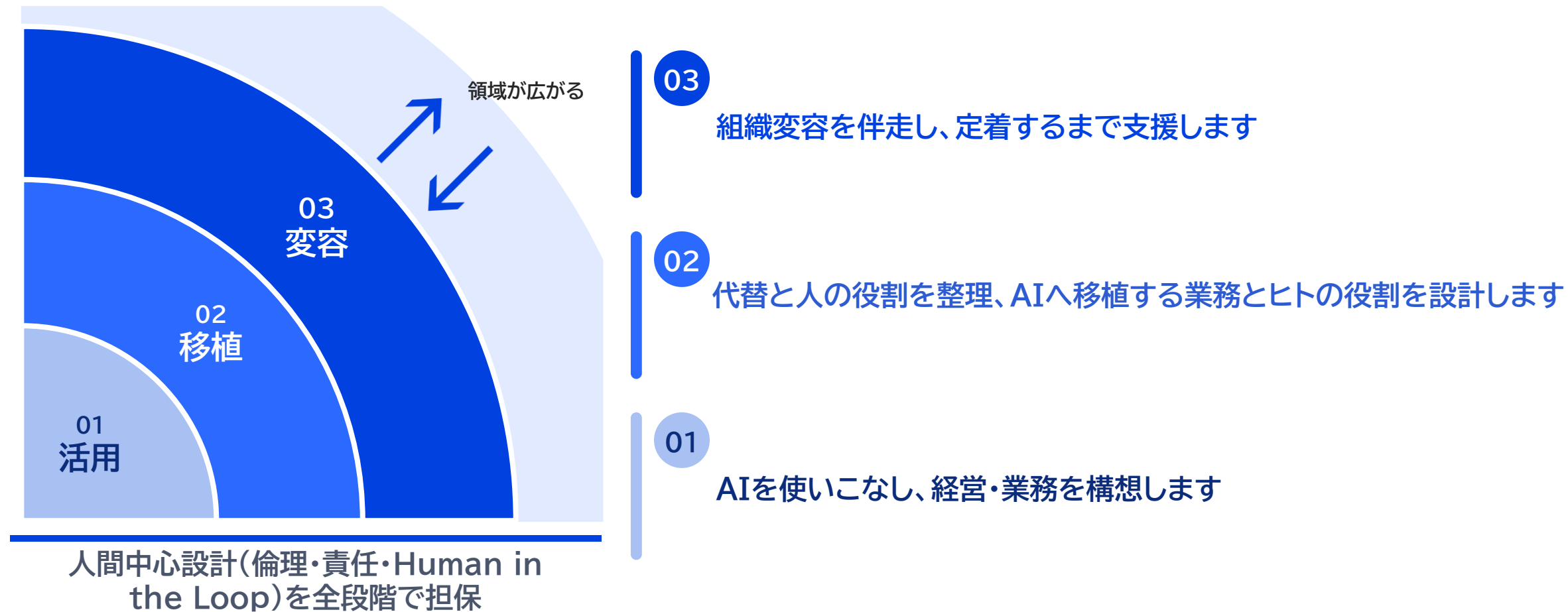
AXDが生み出す独自価値の方程式



全工程を貫く 人間中心設計(倫理・責任・Human in the Loop)

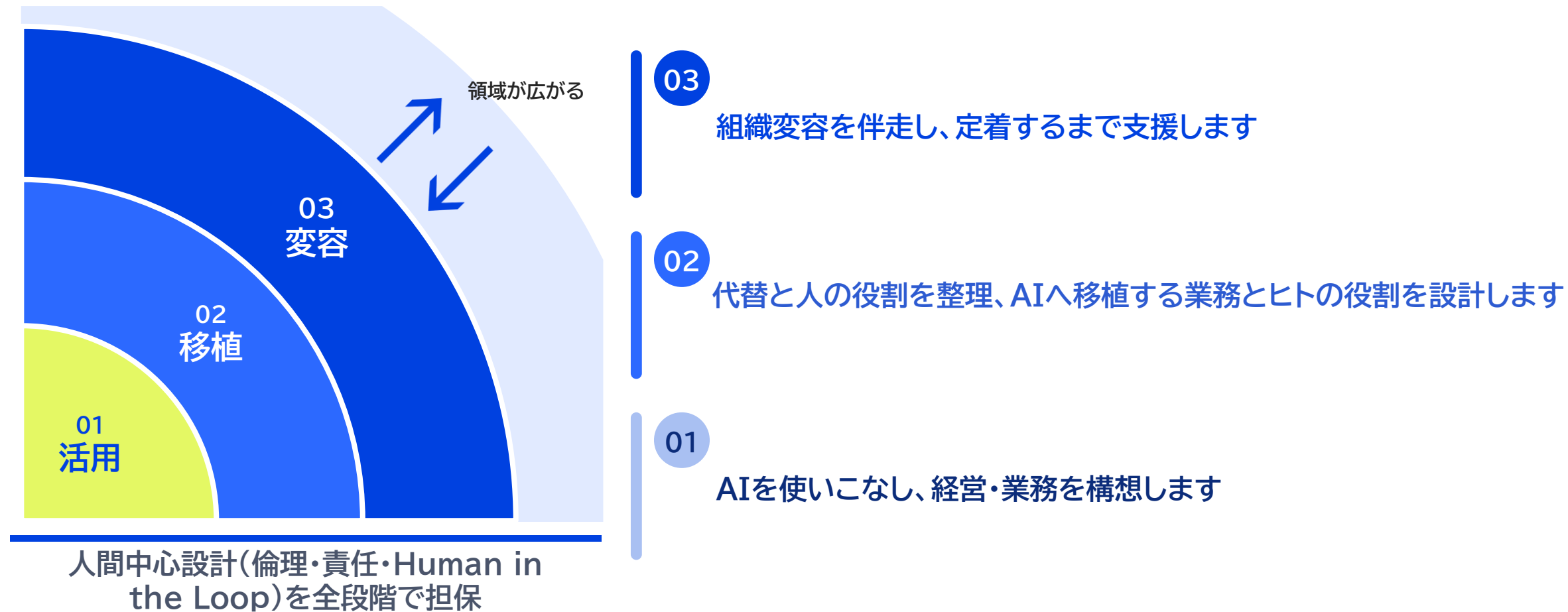
AI活用→エージェント移植→組織変容まで、段階的な進化を伴走

AXを実現するための深く広い領域を支援する人材とノウハウの提供



AI活用→エージェント移植→組織変容まで、段階的な進化を伴走

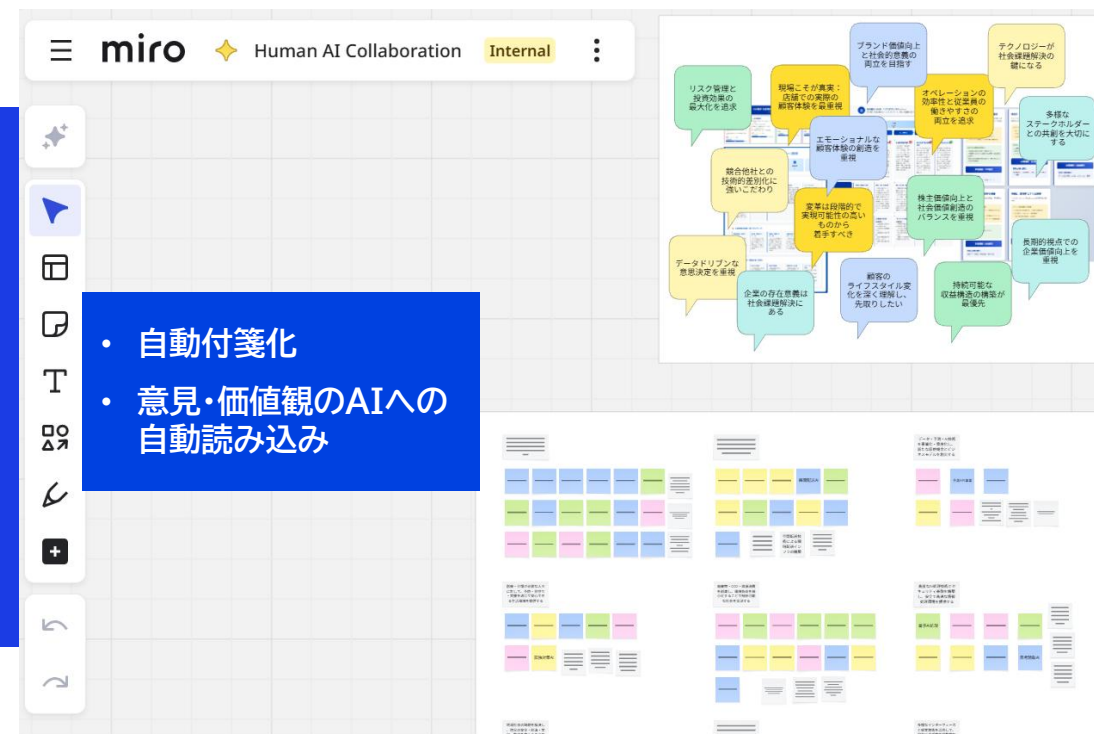
AXを実現するための深く広い領域を支援する人材とノウハウの提供



Human AI Collaboration ~ NEC × Miro

AIとの対話によるアウトカムの高速具体化

 **miro** 連携による自分ゴト化と合意形成



NEC Design AI ～ 特長

ポイント②
Miro連携による
参加者間での
対話の読み込み

ポイント①
AIとの対話による
即時アウトプットの
磨き上げ

ポイント③
NEC変革・
コンサルナレッジ
の搭載



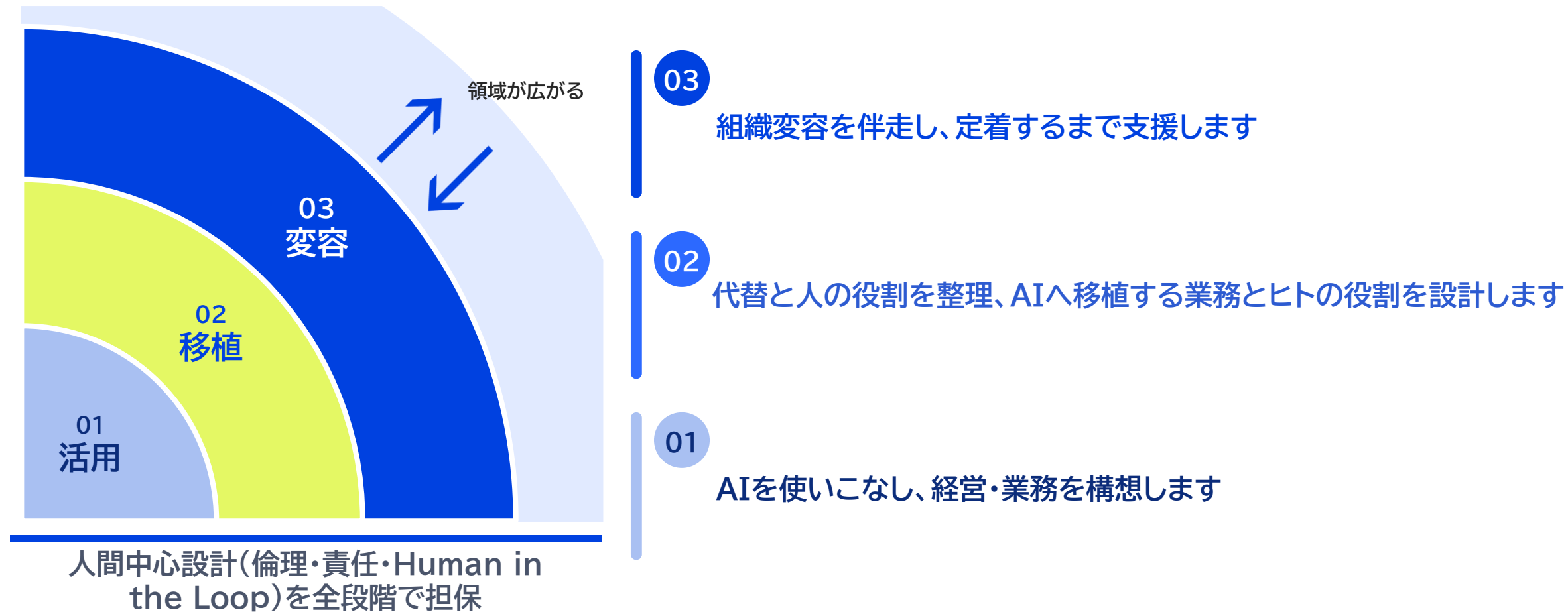
AI・人間の役割

■ 検証結果を踏まえ、AI向き、人間向きの業務を6タイプずつ導出



AI活用→エージェント移植→組織変容まで、段階的な進化を伴走

AXを実現するための深く広い領域を支援する人材とノウハウの提供



Human AI Collaboration -「ヒトとAIが共に育つ」関係のデザイン

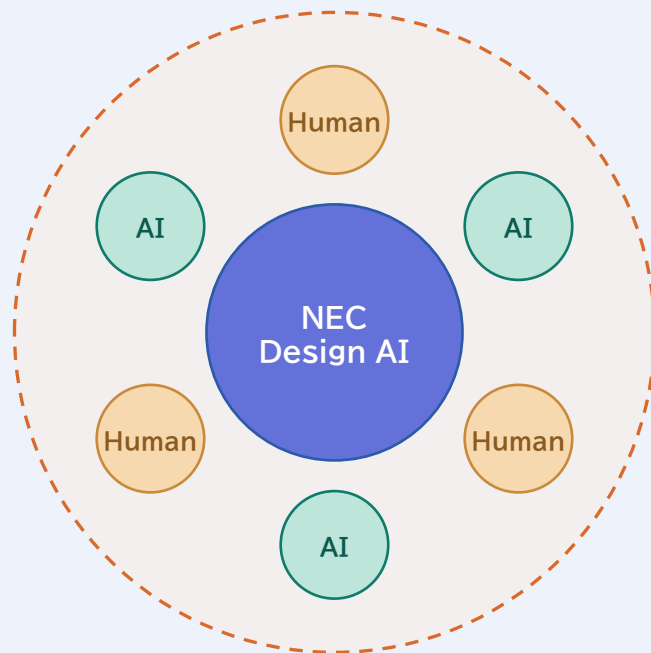
デザインするのは、ヒトとAIが協働する「場」、学び合いを生む「作法」、そして意味を運ぶ「媒介」

AIを「道具」として導入し、使う限り、その価値は頭打ちとなり継続的な事業貢献には至らない。

ヒトとAIが「ともに育つ」関係を設計すれば、協働のたびにヒトは任せ方を学び、AIは組織の文脈を学び、価値は複利で増えていく。

その関係はつねに変化することを前提に、境界を決める「4つの軸」で変化を見極めながら、ダイナミックに更新しつづける。

Human AI Collaboration



Semantic Layer — 意味付けはヒトが担う、協働全体の共有基盤

LAYER① Dynamic Boundary — 協働する「場」の設計

- どこにAIを配置し、何をAIに任せ、何をヒトが握るか(役割の境界設定)
- 境界の位置は4つの軸 — 暗黙知の層(知識は言葉にできるか) / 概念空間の内外(前例はあるか、ないか) / 情報の存在様式(情報はあるか) / 責任の帰着(誰が責任を負うか) — で決める
- 誰がどのように責任を持つか(承認ゲート / AIの根拠可視化)

LAYER② Dynamic Co-Evolution — 学びの「作法」の設計

- AIとヒトが互いに何をどう伝え、どう返していくか — ヒトも学びつづけるループを作る
- 「伝えられない文脈」(ネガティブスペース)の存在を前提に、AIへの過信を防ぐ
- 人間中心設計×デザイン思考で、ともに育ち信頼しあえる作法を確立

FOUNDATION Semantic Layer — 意味の「媒介」の設計

- 行動ログ・会話記録・評価フィードバックは「情報」であり、まだ「意味」ではない
- 組織固有の概念構造(オントロジー)を設計し、情報を意味に変換してAIに渡す
- 協働のたびに概念層を動的に更新 — 文脈学習を表層の行動模倣で終わらせない

最後に AIネイティブ論理とヒューマンセントリック論理

AIネイティブ時代の論理

速ければ速いほどよい。人間が介在するほどボトルネックになる。意思決定の自律化により人間をループから外すことが最適化の本質。

速度観

遅延はすべて損失。ミリ秒単位の最適化が競争優位

人間の役割

監督者として例外処理。ルーチンからは退場

統治モデル

コマンドセンター型。ダッシュボードで一元監視

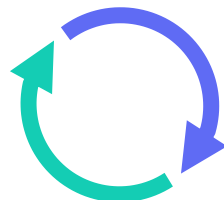
組織設計

マイクロサービス型。機能単位で分解・再構成

人間の存在

コスト。人間一人あたりの生産性を高めるか、人間を減らすかが経営課題

VS



ヒューマンセントリックの論理

テクノロジーが主役ではない。人が中心の世界をデジタルが黒子として支える。完全自動化が可能でも、あえて人間の行動を残す。

速いことと急ぐことは違う。**AIの高速処理は裏側で回し、体験は人間のペース**で届ける

物理的にそこにいる存在。**生産性に信頼を担保する、あえての人間の存在を設計**する

価値観の内在化。**経営者の哲学がエージェントの行動原理に宿る**

生態系型。人間とAIが有機的に共存し、成長し続ける

価値そのもの。人間が歩いて、声をかけて、目を合わせることが信頼を生む。AIはその人間の行動がより効果的になるよう裏から支える。**人間を「残す」のではなく、人間を「活かす」**

AIによる経営戦略策定 実証事例

紺谷 友博 氏（株式会社JTB）× 庄司 和真（NEC）

登壇者のご紹介

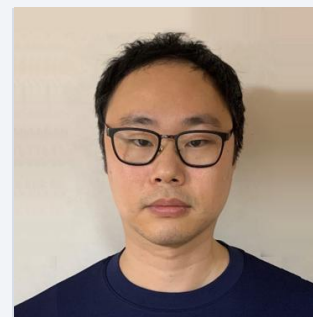
今回の実証を、それぞれの立場から率直に振り返ります。



紺谷 友博 氏

株式会社JTB グループ本社 経営企画チーム
グループリーダー

2014年JTB入社。首都圏の企業向け営業として大型イベントのプロデュースに従事。内閣官房出向(海外向け広報)を経て、2024年より経営企画チームにてJTBグループの中長期経営戦略策定・投資管理を担当。



庄司 和真

NEC コンサルティングサービス事業部門
AXデザイン室 シニアコンサルタント

スタートアップ・大手企業での新規事業開発を経てNECへ。生成AI・データ活用による経営変革コンサルティングに従事し、AI活用による経営戦略策定・経営管理高度化・財務予測高度化・データドリブン経営変革プロジェクトを推進。

本日はお話しすること

構想を説明するだけでなく、何を試し、どこまででき、何が残ったのかをお話しします。

01

JTBが目指す姿

約8分

JTBが目指す姿と、経営企画が抱えていた課題を紺谷様からお話しします。

02

取り組みのご紹介

約5分

検証条件、作成プロセス、公式版との比較結果をご紹介します。

03

ディスカッション

約12分

実際に取り組んだ2人の実感と、経営企画の今後を掘り下げます。

JTBが目指す姿

01



感動のそばに、いつも。

JTBが取り組むDX/AIの方向性

2026年7月29日

株式会社JTB 経営企画チーム 紺谷友博

交流創造事業

JTB

感動のそばに、いつも。

デジタル基盤の上に人の力を活かし、
地域や組織の価値を共創し、人流や情報流、物流を生み出すことで、
人と人、人と地域、人と組織の出会いと共感をサステナブルにつくり続けること。



2035年の世界をのぞいてみましょう



小集団化

パーソナライズ

Well-being

ボーダレス

私たちの世界は、AIによって
想像がつかない速さで変化します。
人々の趣向は正確に把握され、
文化や言葉の壁は低くなります。
コミュニケーションやライフスタイルは
大きく変化していきます。

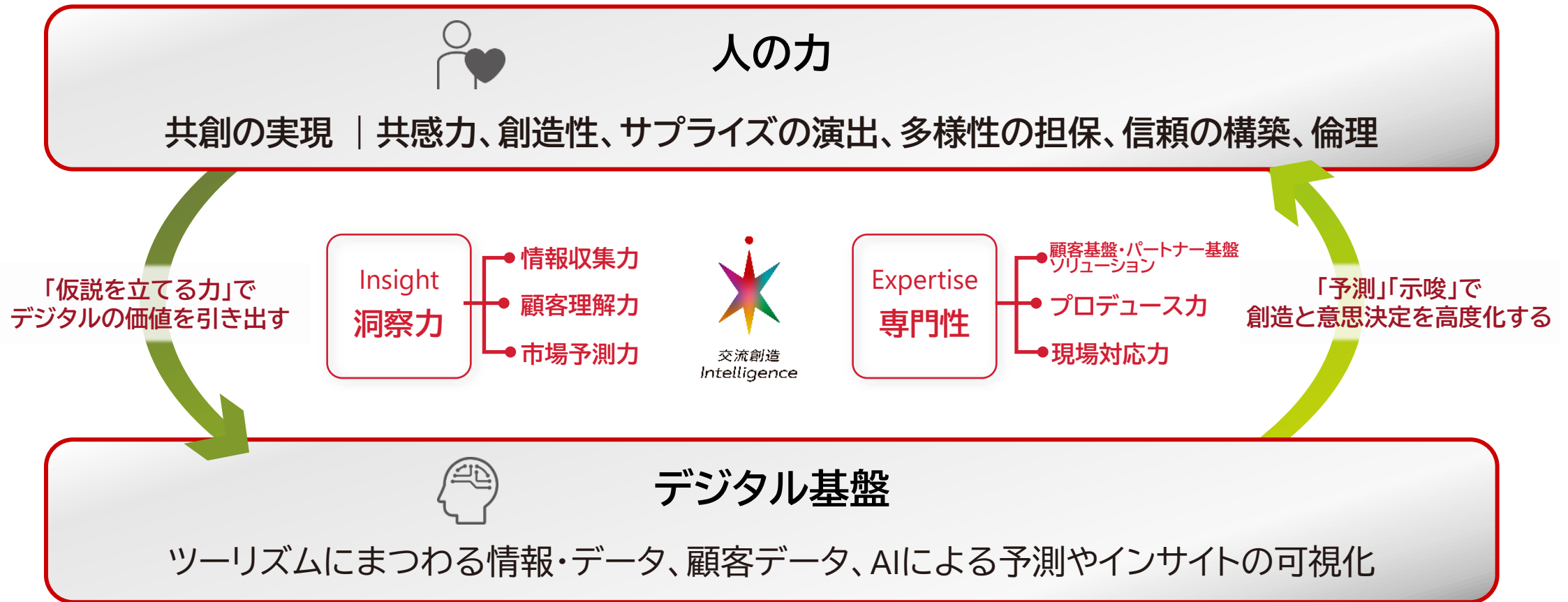
JTBグループの2035年のありたい姿



高い専門性と洞察力で
世界をつなぎ、つくり、つなげ、
感動と幸せで人々を満たす
「新」交流時代の
フロンティア企業となる



デジタル基盤の上に人の力を活かし、 期待を超える感動を創造し続けます。



JTBグループでは、お客様に対するサービスの変革、観光業界を巻き込んだ変革に取り組んでいます。ツーリズム産業は多岐にわたる事業体との「つながり」によって成り立っており、そのため外部環境の変化に敏感です。このような中で、お客様へのサービスの革新や観光業界全体を巻き込む変革を持続的に進めるためには、環境変化に対し、俊敏に適応できる働き方の導入が求められています。



観光業界を巻き込んだ変革



お客様に対するサービスの変革

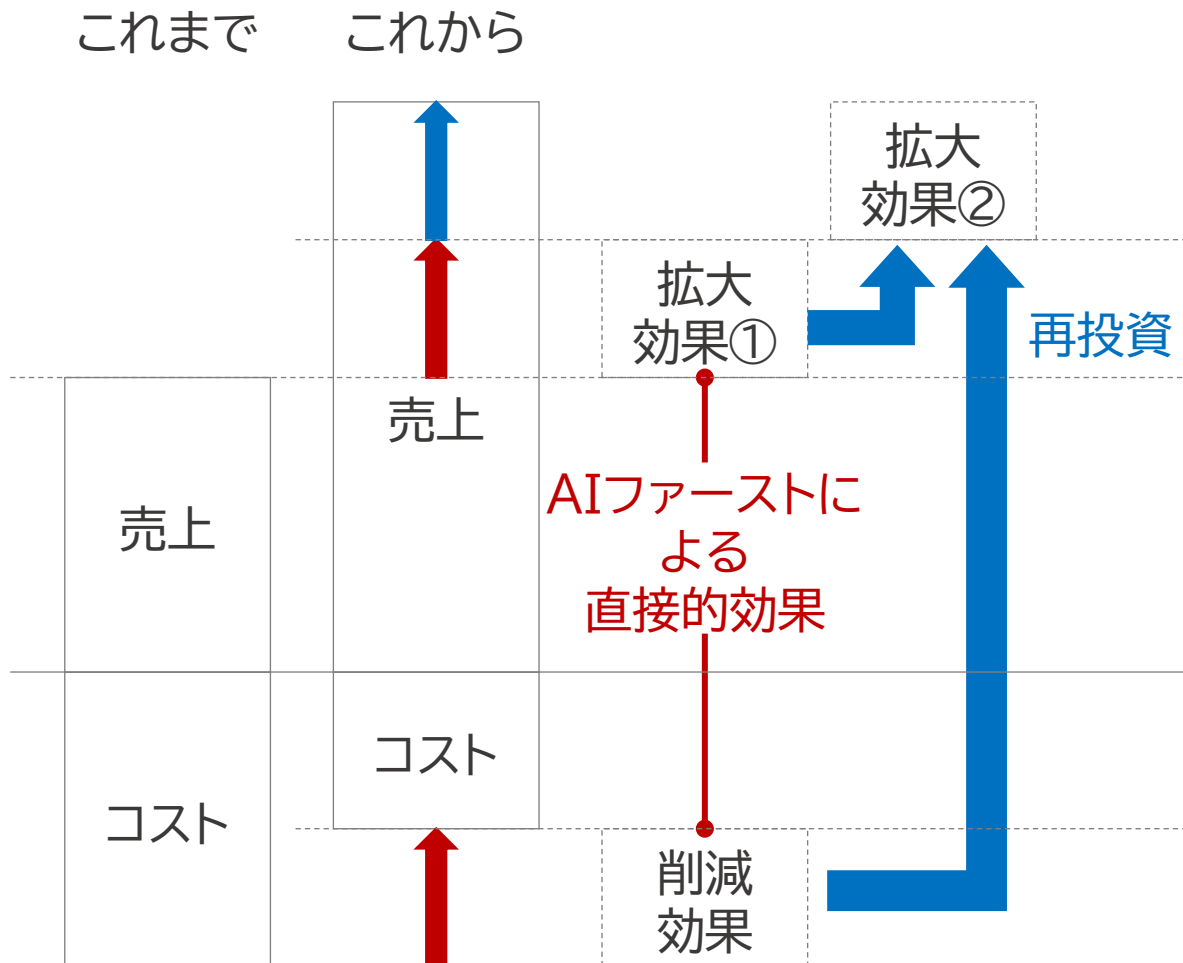


JTB社内の働き方の変革

JTBのDX戦略＝「組織のアジャイル化」

高速にPDCAを回し、顧客動向と市場変化に俊敏に対応することを可能にする組織構造への変革

全ての事業で実践すること



これを実現するためのAI CoE体制

既存事業におけるAI活用・事業の高度化

- ✓ 業務・作業の自動化
- ✓ 非構造化データを活用したマーケティング
- ✓ 意思決定・判断含むナレッジの蓄積

非連続的な成長に向けた事業のチャレンジ

- ✓ 新たな事業モデル自体の創出
- ✓ 抜本的なデータ基盤・カルチャーの変革

鍋ヶ滝公園 オーバーツーリズム解消への挑戦

熊本県小国町の鍋ヶ滝は、約9万年前の巨大噴火により形成された滝で、CMのロケ地として一躍有名になり人気の観光地となりました。しかしながら、多くの観光客が押し寄せた結果、生活道路の深刻な交通渋滞など住民生活に悪影響が生じ、滝自体の観光も混雑により楽しみにくい状況に陥っていました。これらの課題を解決するため、JTBグループが提供する予約システム「チケットHUB®」を活用して、日時ごとの入場枠を設けた事前予約スキームを導入した結果、来訪者の分散化に成功。入場者数だけでなく駐車場の枠も的確にコントロールするなど、渋滞解消と混雑緩和を実現しました。

これらのオーバーツーリズム解消への取り組みが評価され、2022年には「世界の持続可能な観光地トップ100」に選出されるなど、世界的な評価を受けました。JTBグループはこれからも、大切な地域資源を守りながら、観光地の魅力向上に取り組んでまいります。



観光資源「鍋ヶ滝」における持続可能性への取り組み
https://www.jtbcorp.jp/jp/sustainability/action/article/240401_01.html

教育活動効果測定システム「J's GROW」

現代の教育では、思考力・判断力・表現力や、学びに向かう力、人間性など、ソフトスキル(=コンピテンシー)と呼ばれる資質・能力の育成が重要視されています。修学旅行などの学校行事や探究は、これらの資質・能力を育む上で重要な役割を担っていますが、そこで行われる個々の教育活動が、生徒の資質・能力の変化にどのような影響をもたらしたかを可視化することは難しいとされてきました。

J's GROWは、AIを活用した相互評価で生徒の気質やコンピテンシーを測定する「Ai GROW」に、活動前後での生徒の意識変容を測定するアンケートを組み合わせることによって、個々の教育活動が生徒のコンピテンシー変化に与えた影響を可視化します。



事例紹介

新たなパートナーシップで、 ツーリズムの未来を創造する。

2025年10月、JTBは世界のツーリズム業界でB2Bメディア・情報サービスをけん引する「Northstar Travel Group」を、新たにグループに迎えました。

同社が有する世界最先端の情報・分析力と、私たちが長年培ってきた実践的な知見。この2つの強みを融合させることで、ツーリズム産業のさらなる持続的発展に寄与していくことが私たちの狙いです。

業界からの揺るぎない信頼を築くために不可欠な「中立性」を何よりも尊重し、共により良い未来の創造に貢献してまいります。

JTBの新たな挑戦に、ぜひご期待ください。



Northstar Travel Group
<https://www.northstartravelgroup.com/>

取り組みのご紹介

02

中計づくりでは、考える前の作業に時間を取られていた

情報収集、数値化、部門調整。担当者が本来向き合うべき判断の前に、重い作業が積み上がります。

1 情報収集

市場、競合、外部環境を広く調べるだけで数週間。情報を集め終えた頃には、前提が変わっていることもあります。

2 分析・数値化

シナリオと数値計画の作成が一部の担当者に集中。複数案をつくり、比較・検証する余裕がありません。

3 合意形成

関係部門との確認や調整が続き、経営として何を選ぶかを議論する時間が減っていきます。



その結果、

**1つのテーマを検討する
だけで、数か月。**

時間の多くが、「何を決めるか」ではなく
「決めるための準備」に使われていました。

公式中計を見せずに、AIはどこまで中計をつくれるか

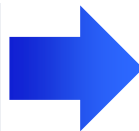
先に正解を見せてしまえば、AIは学習して類似の中計を作成してしまいます。
そこで、AIに逃げ道のない条件を置きました。

検証のルール

公式の中期経営計画は参照させない

現行の計画も参照させない

外部情報と提供データだけで作成する



1

AI版の3か年中計を独立して作成

外部環境分析、ビジョン、事業シナリオ、数値計画までを、一気通貫で作成しました。

2

完成後に初めて公式版と比較

構造、数値、着眼点の差を確認し、AIの実力と限界を検証しました。

答え合わせができる、後戻りのきかない設計にしています。

答えを知らない状態で作らせることで、
「それらしく書けるか」ではなく、「経営判断に使えるか」を
確かめました。

AIが分析を進め、人が枠組みと判断基準を与えた

AIに丸投げしたわけではありません。

人が「何を、どの基準で考えるか」を設計し、AIが大量の分析と生成を担いました。



AIが担当したこと

探索、分析、統合、シナリオ生成、数値算出、公式版との比較



人が担当したこと

問いの設定、対象範囲、社内定義、判断基準、方向性の確認、差分の解釈

公式版との比較

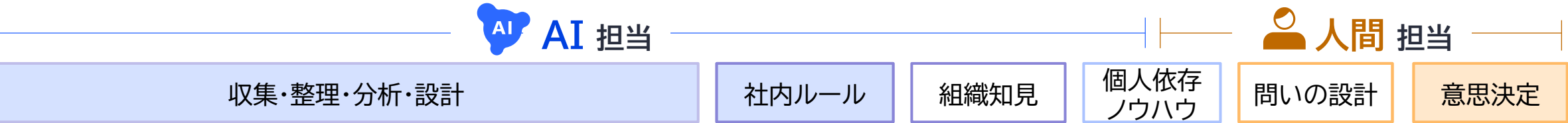
公式版は社内知見に基づく精緻さ、AI版は複数シナリオとリスクへの備えに強みがありました。

軸	公式版	AI版	わかったこと
① 環境認識	AIが生み出す成長機会を中心に整理	AIによる代替リスクを事業別に定量化	機会と脅威の両方を見ることで、環境認識を補完できる。
② 論理の精緻さ	利益ドライバーを細かく分解	大きな方向性は公式版と一致	AIは初期仮説の作成には使える。一方、社内のコスト構造を踏まえた精緻化には、人の知見が必要。
③ 実行可能性	社内事情を踏まえて施策を設計	施策を「誰が・いつ・何をするか」まで具体化	制度、意思決定の慣習、人材の実態など、外から見えない情報は人が補う必要がある。
④ リスク対応	計画を遂行する前提で設計	失敗シナリオ、分岐条件、撤退基準まで提示	AIは、人が見落としやすい下振れリスクや代替案の検討を補完できる。
⑤ 数値の確からしさ	人が一定のロジックのもと設計	一部の主要事業で公式版に近い数値を算出	差は計算精度だけでなく、AI代替リスクなどの前提をどう置くかにも表れた。

※評価軸はAIが一次整理し、両社で結果を確認・解釈しました。

AIによる代替可能性と人間の役割

分析はAIに任せられます。さらに、企業固有のルールを言語化して渡せば、AIの担当範囲は広がります。



実証結果 AI が過半を分担

AI	人(移植可能)	人(残存)
AIに任せる - 情報の収集と整理 - 構造化と定量分析 - 複数シナリオの作成 - 数値計画の算出 - 公式版や実績との比較	AIに移植する - 事業セグメントの定義 - 利益や科目の基準 - 社内固有の例外ルール - シナリオの分岐条件 - 比較・評価のフレーム	人に残す - 問いを立てる - 進む方向を決める - 成長投資を判断する - 結果の品質を確認する - 関係者と合意形成する

今回の実証では、AIが過半の工程を担当。
企業固有の判断ルールをAIに移植できれば、人はより意思決定に集中できます。

実証で得た、次に進むための4つの可能性

「AIで中計が作れた」ことより、どこにを使えば経営企画の質が上がるか可能性が見えたことに意味があります。



AI版は、公式版と大きな方向性が一致した

AIを、戦略の初期仮説や検討材料の作成に使える手応えを得ました。



1案を時間をかけて作る状態から、複数案を比べる状態へ

分析と数値化にかかる時間を減らし、比較や検証に時間を使えるようになります。



人は、問い・判断・合意形成に集中する

資料を作るのではなく、どの案を選び、組織をどう動かすかが中心になります。



同じ型を、他の経営企画業務にも応用できる

中計策定でつくった役割分担を、財務予測や経営管理へ広げられる可能性を確認しました。

財務予測(AI着地予測)への横展開

中計で使った人とAIの役割分担を、月次の業績予測にも当てはめました。

AIが一括で予測を作る

過去実績と季節性から、50超の事業セグメントを同じ条件で予測。実績が確定した後に、予測との差を検証しました。

効く指標だけを加える

「業績への影響があるか」「因果を説明できるか」「実績で確かめられるか」の3条件で候補を選別。

先行販売に関する指標と為替を加えることで、予測誤差が縮小しました。

一方、物価に関する指標は、想定していたほどの説明力を持たないことも分かりました。

外れた理由を、人が考える

予測の作成はAIに任せ、人は実績との差を検証します。

「なぜこの事業だけ外れたのか」を確認する過程で、担当者の暗黙知が言葉になり、チームで共有できる知見に変わっていきます。

予測を作る時間が減るほど、「なぜ外れたのか」「次に何を考えるのか」を考える時間が増えます。

ディスカッション

03

ディスカッション:3つの論点

資料だけでは伝わらない判断や戸惑いも含めて、当事者の実感を掘り下げます。

Q1 AIに任せてよかったこと、任せきれなかったことは何か。

Q2 意思決定は、本当に速く、深くなったのか。

Q3 経営企画の仕事と求められる人材は、これからどう変わるのか。

CLOSING

AIで減らすのは、考える時間ではない

減らすのは、情報を集め、整理し、数字を作るための時間です。

人は、問いを立て、選び、決め、組織を動かすことに集中する。

今回の実証は、AIに経営を任せる取り組みではありません。人が経営判断に使える時間を取り戻す取り組みです。

JTBとNECは、今回得た知見を、データドリブン経営の次の一步につなげていきます。

株式会社JTB × NEC

自然言語でMVPを高速開発する AIネイティブアプローチ

福岡 健太 (NEC)

本日は話すこと

01

AIネイティブな
MVP開発

APPLICATION
DEVELOPMENT

02

アウトプットイメージ
& デモ

OUTPUT IMAGE
& DEMO

03

AIネイティブな
ユーザビリティテスト

USABILITY TEST

人間中心設計をベースとしたMVPによる価値検証

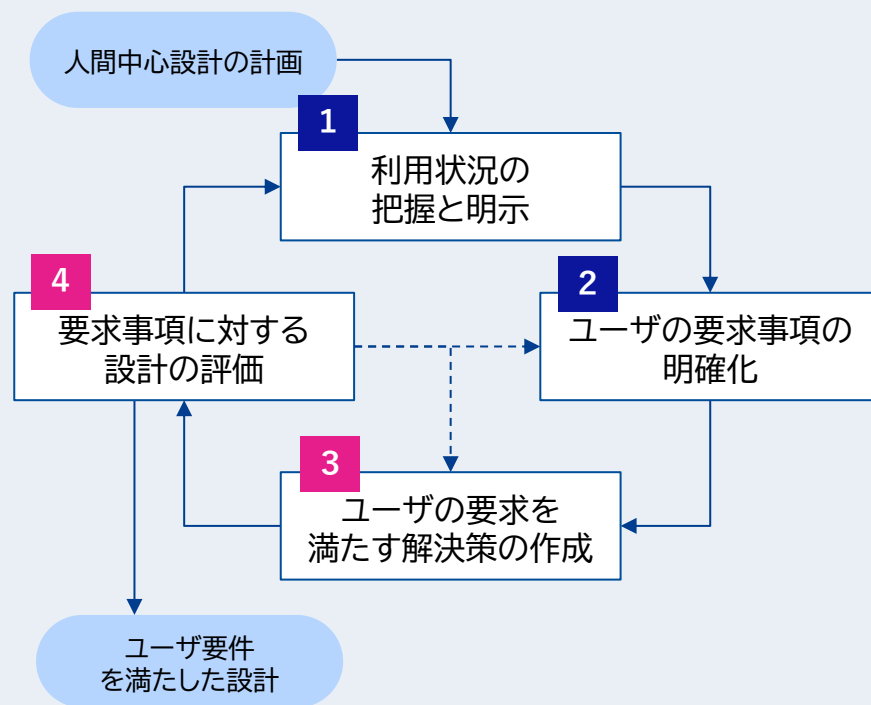
人間中心設計※1の考え方を活かし、ユーザーやサービスのあるべき姿を描き、**MVP※2を用いて解決策の具体化と検証を行う**

※1 ユーザーにとって使いやすくすることに特に主眼を置いた、インタラクティブシステムを開発する上での取り組み方

※2 Minimum Viable Product(必要最小限の価値を提供できる製品・サービス)

人間中心設計のプロセス

ISO9241-210(JIS Z8530)



本日は紹介する AIネイティブなアプローチ

3

ユーザの要求を満たす解決策の作成

01 AIネイティブなMVP開発

02 アウトプットイメージ&デモ

4

要求事項に対する設計の評価

03 AIネイティブなユーザビリティテスト

AIネイティブな MVP開発

APPLICATION DEVELOPMENT

01

AIネイティブなMVP開発

コンセプトを体現したプロトタイプを高速で開発。関係者間でのイメージの擦り合わせ、合意形成を円滑化。

動的プロトタイプの開発

画面レイアウトや操作時のインタラクションを体感できるプロトタイプを即時開発



生成例1

落ち着いた配色を基調とし、リスク状況など強調したい情報をグラフィカルに表示した画面デザイン



生成例2

常時監視などに向けた、ダークモードを基調とした画面デザイン



生成例3

コンシューマー向けスマートフォンアプリのデザイン

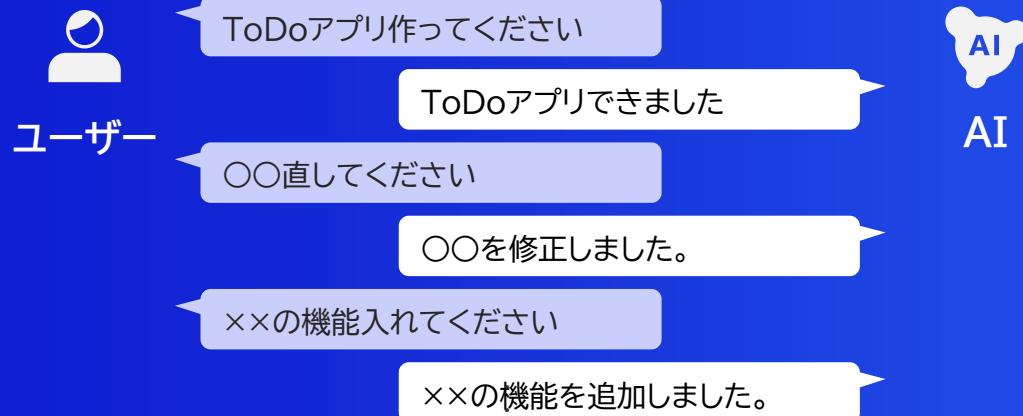
※表示内容は生成AIによって自動生成されたもので、業務で使用しているものではありません。

背景: AIネイティブなアプリケーション開発

自然言語による指示でコーディングを行うVibe Codingや、詳細な仕様(スペック)を定義しAIを用いて設計・実装・検証を行う仕様駆動開発など、AI駆動開発で**今までより数倍～数十倍高速にアプリケーション開発が可能**。

Vibe Coding

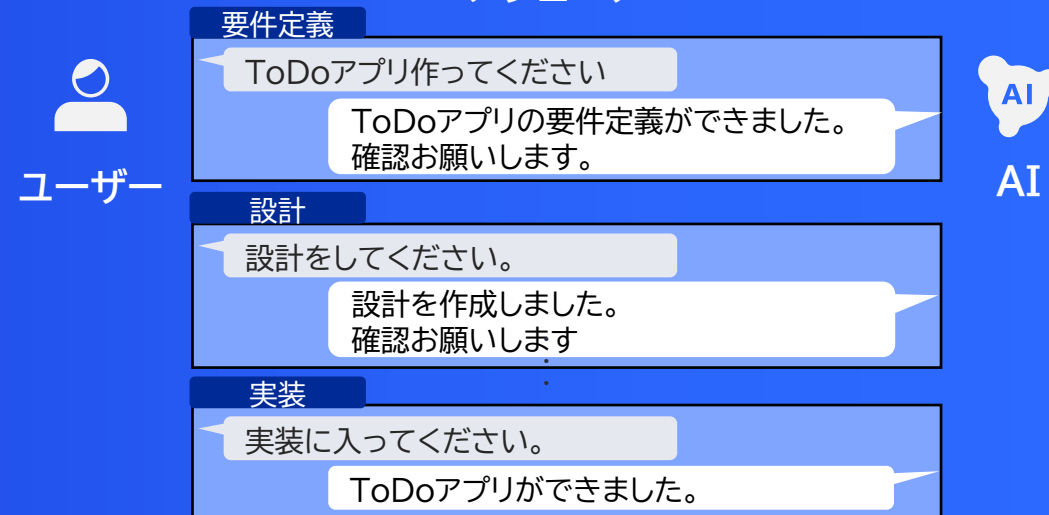
AIとの対話を繰り返してアプリを作り上げていくアプローチで短期間での検証やアイデア出しに有効



- 非エンジニアでも高速にアプリ開発が可能
- × コードや品質の保守性が低い

仕様駆動開発

ステップを追って「仕様を明確」にしてからソースコードを作成するアプローチ



- 仕様と実装のギャップが解消され、コードの品質や保守性が向上
- × エンジニアによる設計レビューが不可欠

スピードと品質を両立するAIネイティブなMVP開発

AI駆動開発により、高速で精緻なMVP開発と仕様の合意形成を実現し、本導入への期間短縮に繋げる。
数画面～十数画面のMVPであれば、1week程度※での実装も可能。 ※期間は画面や機能の複雑さに依存し変動

ポイント①

Vibe Codingと仕様駆動開発、両方の利点を兼ね備えた実装
スピードと安心・安全な品質の両立



作りたい人が自分で作れる、知見が自動で残る

→ 属人化リスクの解決



AIが品質を自動で担保

→ 品質リスクの解決



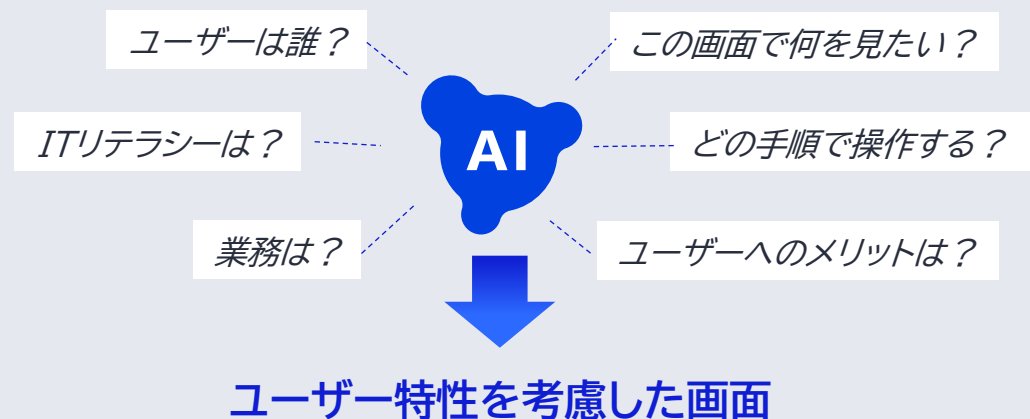
気軽にMVP開発を始め、そのまま本番開発へ

→ 投資リスクの解決

ポイント②

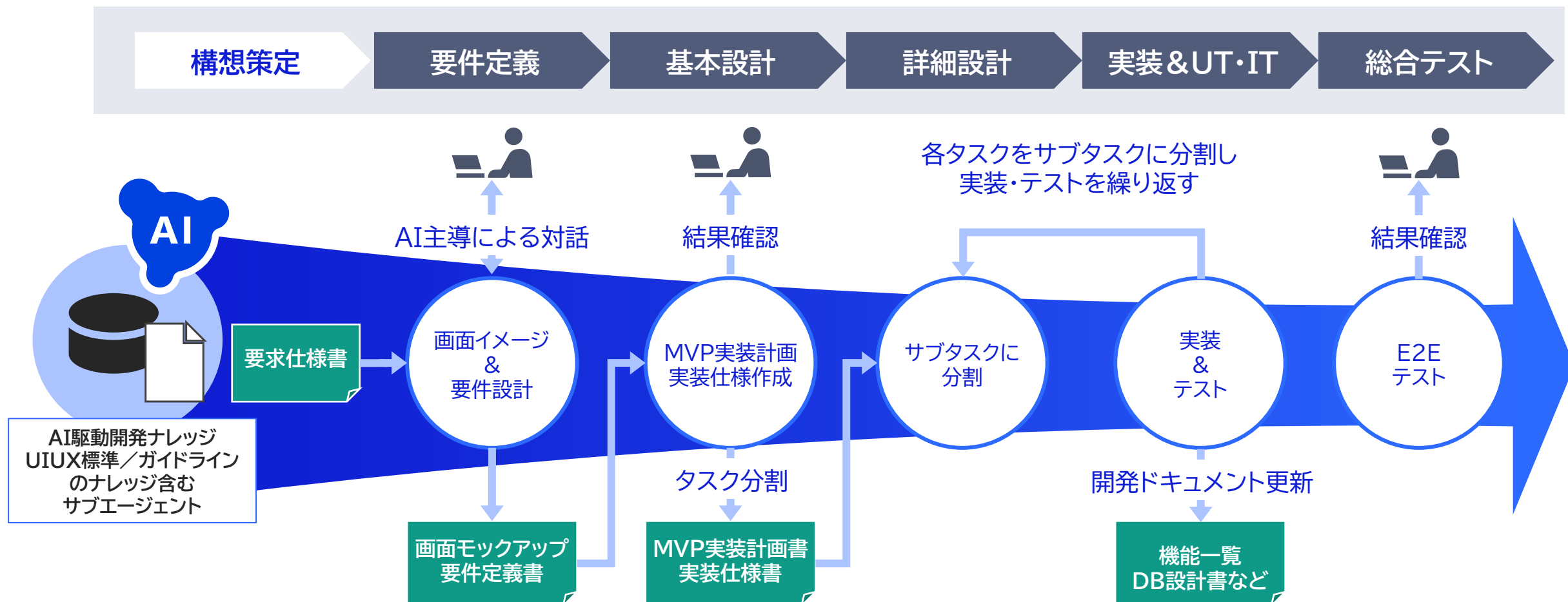
ユーザーの特性を考慮した、根拠あるデザインプロセスにより
ユーザビリティの高い統一的なUI/UXを実現

自然文からブラックボックスの中で画面を生成するのではなく、
企画内容からユーザー特性を分析し、サービスの利用状況を踏まえ
画面を生成



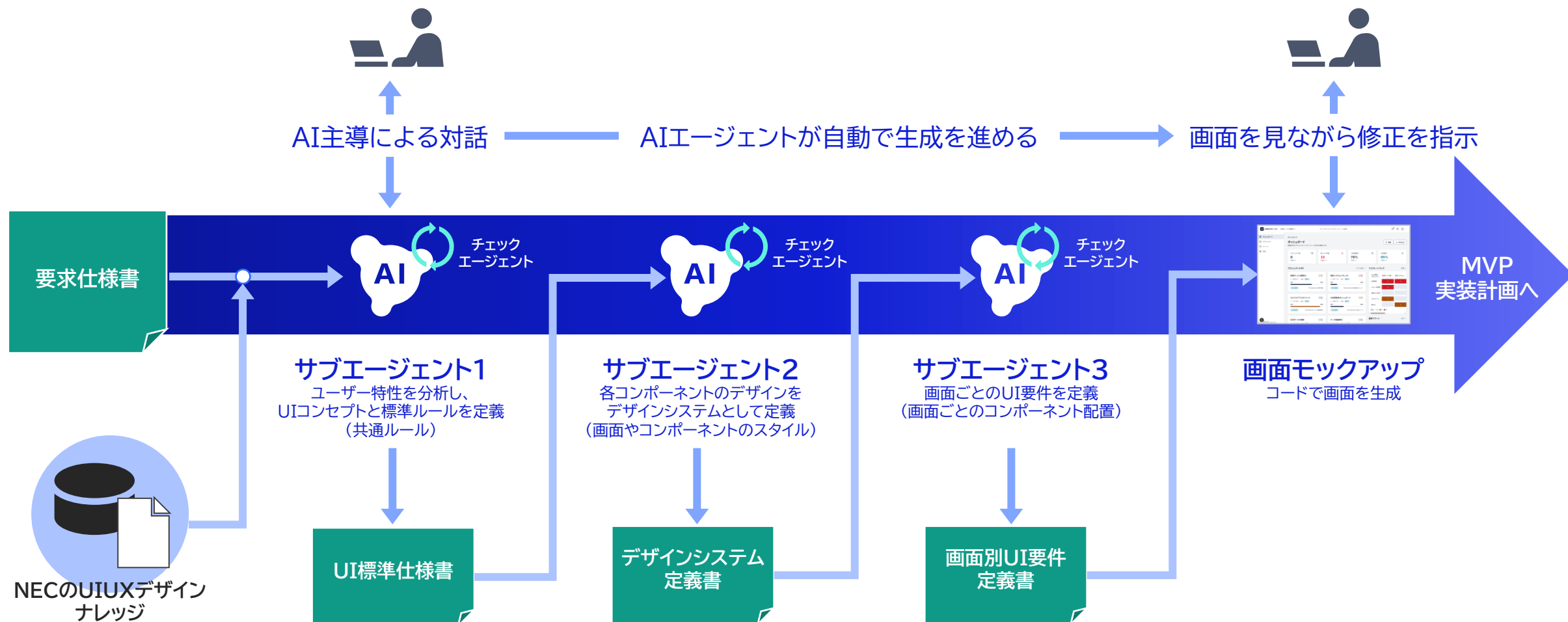
スピードと品質を両立するAIネイティブなMVP開発(2/2)

AI主導によるMVP開発を前提としつつ、ヒトが判断すべきポイントを押さえることで品質を担保。



UIデザイン生成フェーズの詳細

要求仕様書を起点に、3つのサブエージェントが**UIコンセプト→デザインシステム→画面ごとのUI要件定義**という手順を踏んで段階的に生成することで、ブラックボックスを作らず、根拠のあるデザインプロセスを実行。



アウトプットイメージ &デモ

OUTPUT IMAGE & DEMO

02

AIネイティブな ユーザビリティテスト

USABILITY TEST SIMULATION

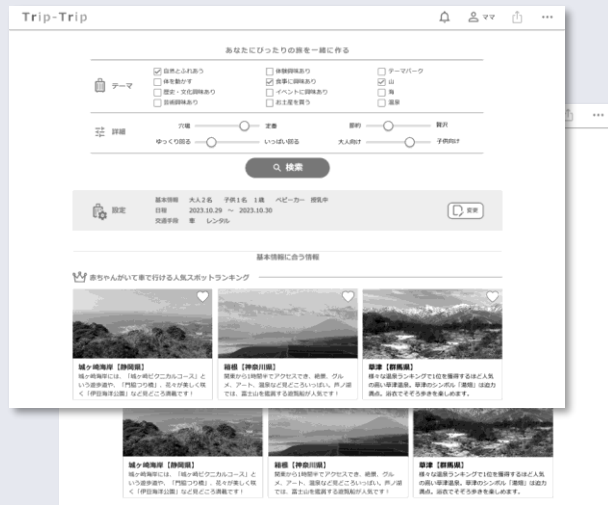
03

AIネイティブなユーザビリティテスト

AI活用によりユーザー(ペルソナ)操作のシミュレーションを実施、使いやすさに関わる評価結果を短期間で得られる。

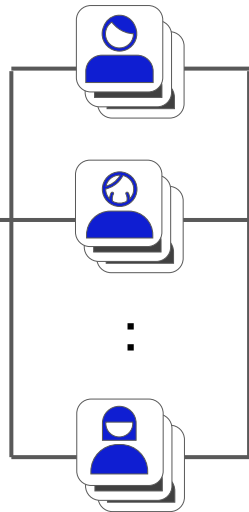
- 弊社サービスデザインのアレツジを活用した**様々な特性を持ったペルソナと評価観点**を設定可能
- 実際のテストに比べて、**極めて高速・低コスト**で評価可能

Input 評価対象



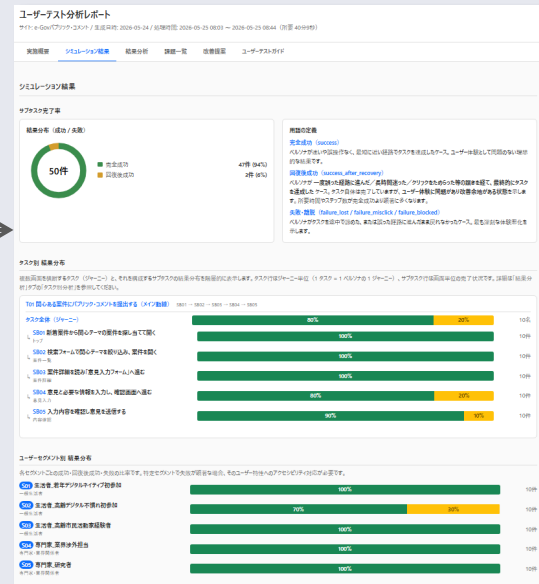
HTMLや仕様書を評価対象とし、
タスク(操作ステップ)を入力

Process AIシミュレーション



弊社ナレツジを活用した
ペルソナ/評価観点

Output 評価結果



インタラクティブなレポート (HTML)



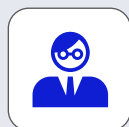
特長① 多様なペルソナ設定と高速シミュレーション

ユーザビリティテスト(シミュレーション)をより高速かつ低コストで実現

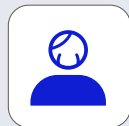
- テスト協力者のリクルーティングにかかる**コスト**や**拘束時間・場所などの制約から解放**
- 実査および分析作業について、実テストと比較して**およそ8~10倍の効率化**

様々な特性のペルソナで検証可能

リクルーティングが難しい方(ハンディキャップを持つ方等)もペルソナとして設定可能



業務初心者やベテラン



高齢者

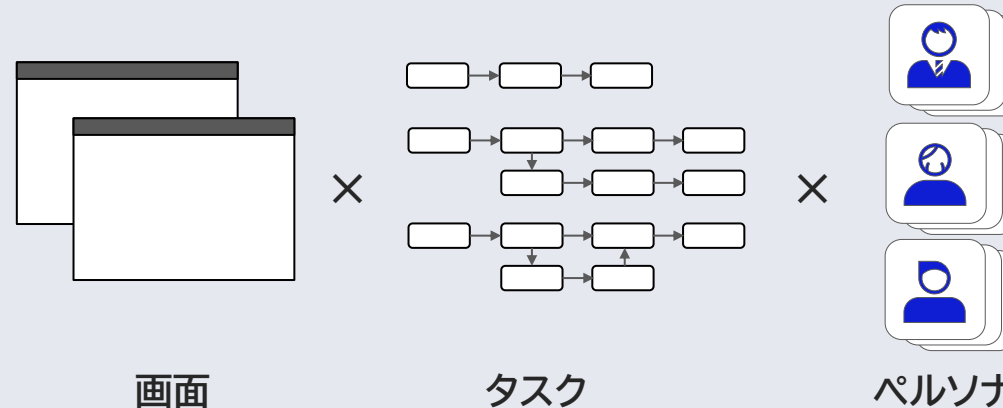


視覚障がい等、ハンディキャップを持つ方

⋮

大人数・大規模なシミュレーション

実テストでは難しい大人数、より広範な画面・タスクに対するテストを実施可能※



※ 実テストでは同じセグメントの協力者は5名が最も効率的とされているが、より多くのペルソナを用意することで5名では検出されなかった問題も発見できる可能性が高くなる

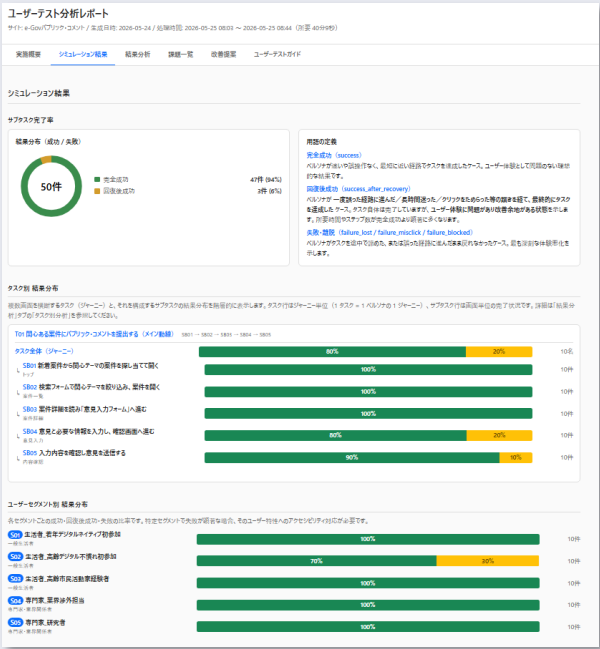
特長② 多角的な評価観点とレポート

ペルソナが指定の画面・タスクに対して、どのように振舞ったかを多角的にレポートニング。

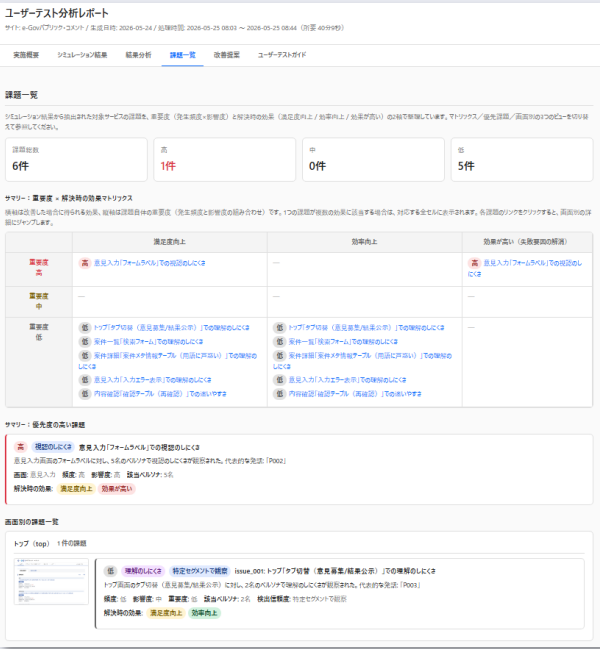
- 実テストでは顕在化しにくい問題をリスクとして提示
- インタラクティブなレポート(HTML)により、様々な角度からの分析をサポート

結果のレポートニング

画面やタスク、セグメントごとなどの各断面からの結果をサマライズ



結果サマリ



課題一覧

画面・タスクごとのユーザー行動の視覚化

ペルソナが画面・タスクで取った行動・思考を辿れるように視覚化



特長③ ネクストアクションにつながる提言

課題に対する改善提案や実テスト設計計画を出力、より円滑・効率的に次のアクションを遂行可能。

- 画面ごとの課題に対して具体的な改善方針や期待効果を提示
- 実テストの実施計画として、**シミュレーションでは推測しきれない口頭発話・身体反応・実機固有の挙動を観察するための要点**や推奨ユーザー、所要時間目安などを表示

改善提案

画面ごとの課題と改善方針、期待効果を表示

ユーザーテスト分析レポート
サイト: e-Gov/ブリック・コメント / 生成日時: 2026-05-24 / 処理時間: 2026-05-25 08:03 ~ 2026-05-25 08:44 (所要: 40分9秒)

実施概要 シミュレーション結果 結果分析 課題一覧 **改善提案** ユーザーテストガイド

改善提案

改善優先度サマリー

高	中	低
1件	0件	5件

画面別の改善提案
画面ごとに改善提案をまとめています。各カードの「対象課題」リンクから課題一覧タブの該当課題に移動できます。

トップ (top) 1件の改善提案

低 imp.002: タブ切替 (意見募集/結果公示) /

対象課題:

- 低: 理解のしにくさ issue.001: トップ「タブ切替 (意見募集/結果公示)」での理解のしにくさ

具体的な改善案

- タブ切替 (意見募集/結果公示) の理解のしにくさに対し、視覚的・言語的な改善を行う
- 専門用語にはツールチップやガイダンスを併記し、初心者でも理解できる文言にする
- 要素のサイズ・コントラスト・配置を見直し、視認性を向上させる

期待される効果: 2名のベテランで観察された誤りの解消、タスク完了率の向上、満足度の改善

意見入力 (input) 2件の改善提案

高 imp.001: フォーム表示 /

対象課題:

- 高: 確認のしにくさ issue.005: 意見入力「フォーム表示」での確認のしにくさ

具体的な改善案

- フォームラベルの確認のしにくさに対し、視覚的・言語的な改善を行う
- 専門用語にはツールチップやガイダンスを併記し、初心者でも理解できる文言にする
- 要素のサイズ・コントラスト・配置を見直し、視認性を向上させる

期待される効果: 5名のベテランで観察された誤りの解消、タスク完了率の向上、満足度の改善

低 imp.005: 入力エラー表示 /

対象課題:

- 低: 理解のしにくさ issue.004: 意見入力「入力エラー表示」での理解のしにくさ

具体的な改善案

- 入力エラー表示の理解のしにくさに対し、視覚的・言語的な改善を行う
- 専門用語にはツールチップやガイダンスを併記し、初心者でも理解できる文言にする
- 要素のサイズ・コントラスト・配置を見直し、視認性を向上させる

期待される効果: 2名のベテランで観察された誤りの解消、タスク完了率の向上、満足度の改善

内容確認 (confirm) 1件の改善提案

低 imp.006: 確認ツール (再確認) /

対象課題:

- 低: 使いやすさ issue.006: 内容確認「確認ツール (再確認)」での使いやすさ

具体的な改善案

- 確認ツール (再確認) の使いやすさに対し、視覚的・言語的な改善を行う

ユーザテストガイド

実テスト時の推奨ユーザーやテスト時の観察ポイント、所要時間の目安等を表示

ユーザーテスト分析レポート
サイト: e-Gov/ブリック・コメント / 生成日時: 2026-05-24 / 処理時間: 2026-05-25 08:03 ~ 2026-05-25 08:44 (所要: 40分9秒)

実施概要 シミュレーション結果 結果分析 課題一覧 **改善提案** **ユーザーテストガイド**

ユーザーテストガイド (実機検証用)

本ガイドは、シミュレーション結果を踏まえた**実機ユーザーテストの実施計画**です。シミュレーションでは推測しきれない**実機固有の挙動を観察するための要点**をまとめます。

1. 推奨ベテラン (最小2名)

シミュレーションで失敗・回復後成功・滞留時間が長かったベテランを優先的に推奨します。

推奨ベテラン1: 高齢・IT低・初めて

該当シミュレートベテラン: P003 — 田中 幸雄 (たなか ゆきお)

採用理由: 生活者・高齢デジタル不慣れ初参加はシミュレートで失敗 0件・回復 2件と顕著な誤りが観察される層。

募集要件の目安: 60代以上・PC利用が日常的でない・バブコ未経験

3. サブタスク詳細とテスト時の観察ポイント

タスク1: 新着案件から関心テーマの案件を探して開く

説明 (被験者向け):

トップページの「新着案件」一覧から、関心テーマ (住宅・高齢者居住) の案件を見つけて詳細ページへ遷移を行ってください。新着一覧の中の特典案件カードをクリックし、案件詳細ページへの遷移を開始する

シミュレーションから判明した「ユーザーが間違えやすいポイント」

- トップ画面で迷いやすい要素: 専門用語、必須項目の判別、操作対象の探索
- サイトの入口として、ここで案件を発見できないと以降のジャーニーが成立しないため失敗時の影響が大きい

シミュレーションでは読み取れない、実機テストで観察すべきポイント

- 誤入力・誤クリック: クリックできないような要素をクリックする、逆に押さない要素を押そうとする
- ファーストビュー認知時間: 何秒で目当ての要素を発見できるか
- 口頭発話: 「えーっと」「これは何？」など、語彙化されるレベルの誤りを記録する
- PC/SP切り替え動作: PCで途中まで操作してスマホで完了させようとする等の挙動

タスク2: 検索フォームで関心テーマを絞り込み、案件を開く

説明 (被験者向け):

検索条件 (キーワード/省庁/期日等) で案件を絞り込み、一覧から特定案件を選んで詳細を開くを行ってください。絞り込み条件を1つ以上設定して検索を実行、または絞り込まず一覧から目的の案件カードをクリックして詳細へ遷移する

シミュレーションから判明した「ユーザーが間違えやすいポイント」

- 案件一覧画面で迷いやすい要素: 専門用語、必須項目の判別、操作対象の探索
- 効率的な案件発見の主要手段。この使いやすさが体験全体を左右するため失敗時の影響が大きい

アンケート回答者に 無償トライアルワークショップのチャンス

概要

アンケート内の無償トライアルワークショップに関する設問で「応募する」を選択されたお客様の中から、AXデザイン室のコンサルタントがヒアリングを実施したうえで、対象企業を決定いたします。

体験内容

- 経営課題(中期経営計画策定、事業構想など)から1テーマを設定し、約2時間の「AI×人の協働ワークショップ」を実施
- AIによる市場環境等の分析と、コンサルタントを交えたディスカッションを掛け合わせることで、通常数ヶ月を要する未来シナリオ・ロードマップの原案を可視化

※ご希望いただいた方全員ではなく、ヒアリングを踏まえた選定制となります

ご希望者
のうち
**最大3社
限定**

セミナー終了後に表示する「アンケート」URLからご応募ください
締切: 2026年8月21日(金)

NEC

\Orchestrating a brighter world